GRANDAME-JAPAN2026／JRA認定競走／サンケイスポーツ杯

第42回 プリンセスカップ （Ｍ１）

盛岡競馬場／2歳牝馬・ダート1400m

11月1日（日）第12競走　18：15発走

1984年に新設されたプリンセスカップは当初は旧3歳牝馬の特別競走として実施。第1回は旧盛岡競馬場のダート1100ｍという条件でした。その後は盛岡・水沢で開催地を変えつつ、また東北3場交流の特別戦として行われた時期も経て2012年にGRANDAME-JAPAN2歳シーズンの一戦として地方競馬全国交流へ、それと同時に2歳牝馬の重賞に格上げ。秋が深まる時期に行われる牝馬の熱い戦いとなっています。

■ラビリンスティアラ(牝2 北海道・村上正和厩舎)

デビューから初勝利までは3戦を要したが、初戦はオレンジピール、2戦目はアンサラーという後の重賞級の馬たち相手に3着を確保。3戦目の初勝利から即上級認定快勝、そして8月の重賞で連続3着の好結果を残した力量は実は早くから示していたとみるのが妥当だ。重賞勝ちこそまだないものの先日のエーデルワイス賞を制したクラプロスパーと互角に戦っていた事を思えばタイトル奪取もあくまでタイミングの、時間の問題のはず。既に何度も騎乗して手の内に入れている鞍上なのも心強い。

間隔は少し短いが元気いっぱい。まだ身体に緩さがあるのか終いはややジリジリした伸びで。その点で直線に坂のある盛岡は戦いやすいのでは。（村上正和調教師）

■エイシズハイ(牝2 水沢・伊藤和忍厩舎)

10月4日の盛岡での新馬戦は7馬身差の快勝、2戦目の前走は5着で、これが現時点の本馬の戦績の全てになる。もちろん重賞もこれが初挑戦だ。母サマーリガードはJRAデビューから兵庫・佐賀・浦和と転じて地方で通算14勝。本馬の半兄ベラジオホープが岩手で4勝を挙げており、父マテラスカイも相まってダート・1400ｍあたりの適性はかなり高いと見ることができる血統だ。3戦目での重賞挑戦は文字通りチャレンジだがこの先に繋がる戦いを見せてくれるだろう。

前走は2戦目・距離延長という事を思えば5着でも十分な内容。状態は変わりないですし、ここは胸を借りるつもりで挑みます。（伊藤和忍調教師）

■ユウユウジュレップ(牝2 水沢・佐藤祐司厩舎)

2歳戦では門別勢のデビューが早いのが通例だが、今回のメンバー中では本馬が一番最初の4月19日デビュー。そこから積んできた11戦のキャリアもメンバー中で最多になる。一進一退しつつ初勝利は10戦目だったが直近の4戦では3着を外していない。そこが経験を積みつつ成長してきた表れ、それが勝利にも繋がったと見ていいだろう。前で競り合ってしぶとく、末脚も確か。400kgそこそこの身体は確かに小さいが、その馬体印象以上の走りを見せ続けている点は覚えておきたいところだ。

レース経験を積んで、良い競馬を繰り返してくれているのは自分の走りが固まってきているのかと感じます。華奢な分で不利な面もありますが頑張ってほしいですね。（佐藤祐司調教師）

■エマーブル(牝2 水沢・新田守厩舎)

ここまで8戦のキャリアの中で勝ち星は2つに留まるが、若駒賞での9着を除けば全て掲示板確保、勝ち馬との差も決して大きくはない。ゼノグレイスやマツリダゲンキマンといった重賞でも上位に食い込める馬たちとも差のない戦いができている点は着目していいはずだ。ここでの課題はやはり重賞でどれだけ戦えるか。若駒賞も自分の形にならないで終わった印象があった。遠征勢がいる中で自分の戦いを貫けるかどうか？が焦点になるだろう。

状態面はコンスタントに良い馬です。前走が、勝ったとはいえちょっとこの馬の行き脚ではなかった。本来はもう少し前で戦える馬だと思います。（新田守調教師）

■ササキンライラック（牝2 盛岡・飯田弘道厩舎）

6月30日のデビュー戦はあわや大差という10馬身差圧勝。その強烈な印象から2戦目のIWATE LIMITED戦では単勝2番人気の支持を受けたが大きく敗れる結果に。重賞級では苦戦気味だったがここ二戦の一般戦では6着・4着と復調の兆しを見せている。当初はスピードを活かす形で戦っていたが近走では控える形を模索、様々に工夫をしながら脚質転換を図っているのが結果にも表れてきたといえそうだ。現時点ではまだ“生みの苦しみ”の段階かもしれないが、この経験はきっと将来に活きてくれる。

現状では距離はこれくらいがギリギリなのかなと思います。前走のように末脚を活かす競馬をして、そういうレースの形を掴みたいですね。（飯田弘道調教師）

■ロゼットリボン（牝2 北海道・田中淳司厩舎）

デビュー戦快勝、返す刀で上級認定も勝利とデビューから素質の高さを見せつけてきた。その2戦目は6頭立て6番人気からの勝利で波乱を演出した形にはなったが、あくまでも“のちのち重賞で勝ち負けをするような馬が6頭集まった中での6番目の人気”だったに過ぎなかった事は覚えておきたい。地元では非常に強力な先行馬が立ち塞がってなかなかこの馬向きの展開になってくれないが、その馬がいないここなら、今までと大きく異なる結果を叩き出してもなんら不思議はない。

前走は砂を被ってハミを取らなくて･･･で実質直線だけの競馬。スムーズに流れに乗れるようになれば結果も違うんじゃないかな。距離もこれくらいが良いと思います。（田中淳司調教師）

■ハイラブクイーン（牝2 大井・松浦裕之厩舎）

（写真:Akihiko Tekeda）

「北海道対岩手」の構図が多いこのレースだが2016年には浦和のスターインパルスが制したのをはじめ南関東からの挑戦は複数あった。ただそのスターインパルスは6戦3勝・重賞3着の実績を携えての参戦。浅いキャリアの馬は好結果には繋がっていないという点は本馬には厳しい過去傾向だと言わざるを得ない。それでも敢えての遠征は陣営が本馬の素質を高く評価しているためだ。「いずれはいろいろな所に挑戦できる馬だと思っている。それを引き出せるような競馬をさせたい」と松浦師。陣営の期待に応える走りを見せてくれるか？に注目しよう。

新馬戦は3着でしたが良い走り方で上のクラスも狙えそうな感覚がありました。まだ2戦だからと言ってもひけは取らない馬だと思っています。（松浦裕之調教師）

■タカマキナイン（牝2 水沢・佐藤祐司厩舎）

前走のネクストスター盛岡の「見どころ」ではマイルから1400ｍへの距離短縮が好材料になれば･･･と記したが結果は残念ながら12着と振るわなかった。とはいうものの、ハナを奪って終盤まで先行争いを演じて見せたスピードはなかなかのもの。夏のIWATE LIMITED戦でクリムゾンダリアらを封じた走りはフロックではなかったのだろう。前走と同じ1400ｍが舞台、牝馬同士といえど前走以上の歯ごたえを感じる相手関係だけに楽な戦いはできないだろうが、快速ぶりを完全発揮ならあるいは･･･。

“走る馬”に必要な要素は持っていると思うのですが良い結果に繋がらないのがもどかしい。遠征勢もいますし、これまでと違う形の競馬もアリかもしれませんね。（佐藤祐司調教師）

■サザングルーヴ（牝2 北海道・川島洋人厩舎）

5月のデビュー戦は4着に終わっているが、その時の勝ち馬パドラは後に兵庫に移籍して園田プリンセスカップを、2着のニューハーピーはこちらは名古屋に移籍してネクストスター名古屋を制している。今になってみれば非常にレベルが高い新馬戦だったと言えるだろう。そこからすれば2戦目で勝利、即座に重賞に挑んだ3戦目・4戦目でも3着・2着に食い込んだ本馬の力量の高さに疑念はない。前走は強豪相手に勝ちに行く競馬をした分での6着。その経験をここでの重賞獲りに活かし切る。

前走は初のコーナー4つの競馬に戸惑ったところがあったし、勝負に行って負けた感じなので着順は気にしていない。思い通りの調整ができた今回は楽しみです。（川島洋人調教師）

文・特記無き写真／横川典視